



子供の憶病につきて

文學士 松本孝次郎

總て賢い方の子供と云ふものは、概して申しますと早くから多少恐れると云ふやうな性質を有つて居るものであります。鈍い方の子供よりは賢い子供の方が早くから恐れると云ふ方の傾きを持ちます。さうして目で以て見た物よりも却て耳で以て聞く所の音に向つて早く恐れを現はす傾きがあります。物の音に驚くと云ふやうな事は早くから現はれて居るです、併し賢い子供は若し自分が自ら笛を吹くとか或は太鼓を叩くとか云ふやうな風に、自分自身で以て或る場合に音を出して見ると云ふことが出来るやうになりますと云ふと、それから物の音と云ふものも餘り驚かなくなつて來る

です、自分が原因となつて力を出してさうして音を出すことが出來ると云ふやうになれば却て音を悦ぶと云ふ興味を起すやうになつて來るものであります。音に續きましては目で見た物を驚くと云ふ性質を起すものであります、それは餘程大きな物を見て恐れるとか、或は形が普通見た物と變つた物があればそれを恐れると云ふやうな、さう云ふやうな性質が早く現はれて來るです。併し是れも通常の場合でありますと云ふと始まりはさう云ふやうな物を見て恐れて居りますけれども、其内に好奇心と云ふものが子供に起つて來るものです、此好奇心と云ふものは子供には殆ど天然自然に備はつて居ると言ふても宜しい位に早くからある所のものです、大人の場合で申しますれば研究心とでも言ふべきものなのです、大人で言つて見ると、何か變つた珍らしい物を見ればそれを一つ研究して見やうと云ふやうな心が起る。それが子供の場合には好奇心に富んで居る智力の乏しい子供は好奇心が少いと云ふ譯であります。此好奇心に助けられまして、始まりは怖がつたやうな物も自分から

を付けて之を見やうと云ふ様な心が子供に起つて来るのです。それで此心が起つて氣を付けて見ると云ふやうになれば、其處に自然に面白味或は愉快と云ふものも出て来る譯である。子供が怖い物でも見る。俗に怖い物見たさと云ひますが、それはどうかと云ふと詰り此好奇心に助けられた結果である斯う云ふ譯でありますからして、若し智力が普通の發達を致しまする子供でありますならば、一時は恐れると云ふ状態を持つて居る者でも、永く之を恐れると云ふやうな状態はにならないのです。然るに臆病と云ふやうになりましたのは、是れはもう恐れると云ふ心が極端に發達して仕舞つたもので、始まりに子供が怖がると云ふ性質があるのは自然的であるけれども、何事でも萬事に付て臆病であると云ふやうになりますのは、最早不自然的の有様であると言はなければならぬのです。能く世間の母親の中には、自分の子供が兎角物事に吃驚するやうな事があつたり、或は怖がる事があつたりすると言ふて心配をされる方がありますが、それは強ち心配するには及ば

ない。唯ださう云ふ場合に於て神經の過敏な性質の者でありますと云ふと、随分之に伴つて神經上危険な事がありますからして注意して育てると云ふことは必要でありますけれども、唯だ物事に驚くとか云ふ位のことではそれ程心配するには及ばぬので、それは普通の子供ならば暫く経つと段々に直つて行くので、却て子供が賢い方の場合に於てさう云ふやうな性質を見るのであります。そこで其子供を育て行くのに、其怖がる所の物を一時に急に怖がらせないやうにすると云ふ方法を採るのは無論誤つて居るのです。能く人が言ふのに、若し大層怖がるのならばこれを怖がらないやうにする爲めに却て其物を見せてやつた方が宜からう、斯う云ふやうな考を持つて居る人もありますけれども、急激に之れを怖がらないやうにする方法を採ると云ふことは幼稚な子供には少しく無理であります。意思の十分に發達致しました子供、例へば小學校時代の子供でありますと云ふと、其怖く無いと云ふ事の理由を能く説いて其品物を見せれば、却て之を怖がらないやうになると云ふこ

とがありまますけれどもまだ家庭時代或は幼稚園時代の子供では急に之を直すことは六ヶ敷いからして、先づ追々と智識を養つて行きさうして折々さう云ふやうな怖がる物に接近させて慣れしむると云ふやうな方法を探つて順次に其成功を期すると云ふやうな考で行かなければならぬのです。若し子供が昆虫類杯を怖がるやうな場合に於ては、傍らからして其昆虫と云ふものに付て美と云ふものを感じしめる方法、例へば繪の中に美しく描き現はされて居る所の昆虫なるものをば見せて、其昆虫の自然的美と云ふやうなものを感ぜしめるとか、又は昆虫に付て動物學上の理科的の説明を簡短にして、さうしてさう恐ろしいもので無いと云ふことを説明致しましたならば随分子供が之を會得することもある。併し大人が世の中に幽霊と云ふものは無いと云ふことが分つて居つても矢張り夜中に墓場を通ると幾らか氣持が悪いと云ふのと同じこと、子供にそれが分つてもまだ氣持の悪いと云ふことが頭に殘つて居るものでありますからして、矢張り道理を以て其子供の怖がるのを直

ぐに止めさせて仕舞ふと云ふやうな事は實際には行はれ難いものでありますから段々に之を直し之を導くと云ふやうな方法を探らなければならぬのです。そこで此恐れると云ふことが極端の個性となりました場合に於ては臆病と云ふ性質になつて來ますが、此場合に於ては最早恐れると云ふ感情も天然自然の目的に背ひたものになつて來るのです。臆病と云ふ状態になりますと云ふと、恐れると云ふ感情が天然自然に人に與へられて居る所の目的に背いた働きをするやうになるのです。詰り物に恐れると云ふことは禍を未然に防ぐと云ふ目的に適つたものであつて、危きに近付かないやうな有様になるのが即ち恐れると云ふことが役に立つのであり。詰り危いやうな物には早くから恐れて側に寄らないと云ふことが恐れ感情の目的であります。それが臆病と云ふやうになると云ふと、恐ろしいものでも實際恐ろしくないので其區別が付かないで、唯だもう初めからして之を怖がると云ふやうになつて來るのです。で斯う云ふやうな状態になりますのは、幾分かは遺傳的

の原因があります。遺傳的と申しますのは、どう云ふやうに親が考へて見てもどう云ふやうに保母が考へて見ても、どう云ふ譯で怖がるものであるか其理由を少しも説明することが出来ぬやうな場合には、其臆病と云ふことが遺傳的に起つたと云ふの外は無いので、詰り説明の付かない場合に於てそれを遺傳に歸着せしむると云ふやうになつて居ります。眞の遺傳的のものでありますと云ふと大人になる時迄永く其性質が續いて行くと云ふやうな有様になる。例へば非常に鼠を恐れるとか、非常に猫を恐れるとか、非常に蛇を恐れるとか云ふやうな、さう云ふ特別な物に對して非常に臆病であるとか云ふやうな性質は、大人になる時迄變らずに續いて行くことがあるものです。烈しい者になりますと云ふと、若し偶々さう云ふ物に出逢はなければならなくなつて來れば一時子供が發熱をすると云ふ位に吃驚することもあるのです。そこで教育上一番注意すべきのは、子供の取扱ひ方の上にて天然には無い所の臆病心と云ふものを養成して仕舞ふやうな場合があるのです。

それはどう云ふ所からさう云ふやうな事が起つて來るか云ふと、偶々或る蟲を見ると云ふやうな場合に於て、子供は極く無邪氣な心を以て其蟲に觸らうと云ふやうな事もあるでありませう。所が側に居る者がそれは不潔なものであると云ふやうな考からして、子供に觸らせぬ爲めにそれは怖いとか厭やな物だとか云ふやうなことを極く大袈裟に言ふのです。それが爲めに子供は其物を大變に嫌ふと云ふ精神を起すものです。さうして子供の想像力が段々に増して來まして、意には非常に想像を逞うして初めからしてもう其物に觸るのを恐れると云ふやうになつて來るものであるのです。それは則ち其物体に付ての臆病心をば養ひ易いものなのです。それで若し子供が觸つては可けないと云ふやうな物であるならば、成るべく其場所をば黙つて去らしめると云ふやうな方法が最も宜しいのです。概して子供を取扱ふ所の人は、何でも自分の口で驍舌るとか騒ぐとか云ふやうであるが、それは特に慎むべきことである。實際恐るべき物或は怖いやうな物でも側に附いて居る者が黙

つて適當な處置をして仕舞へば、子供はそれを氣が付かずに過ぎて仕舞ふものであるのです。それを兎角子供を取扱ふ所の人は、自分が手を以て子供に對する適當な處置をするよりも口の方が多く働き過ぎる。それが餘程子供の臆病な性質を養ひ易いのですからして、私は口よりは先づ手を動かせと、斯う云ふ事を申上げて置きたいと思ひます。是れは子供の取扱上非常に大切な事であります。それから又子供の取扱ひ方が餘りに子供を愛し過ぎまして詰り平生からして子供の心をば鍛錬すると云ふことをば怠つて居る。餘り色々の刺戟に逢はせないやうに大事にして置くこと云ふやうなことは、却て子供が何事にも恐れ易い。臆病な心になり易くなる。詰り全く老人の手で育つと云ふ子供でありますと云ふと餘り大事にされ過ぎて却てそれが爲めに臆病なる所の性質を持ち易いのです。詰り何事にも大事を取過ぎて、それも危い、是れも危いと云ふやうな事ばかり始終言ふて居りますると、段々に子供の精神が適當なる發達をしないで萎縮して仕舞ふと云ふやうな風になるので

す。餘程子供の感情と云ふもの、扱ひ方は六ヶ敷いもので唯だ一時感情の發達と云ふものが不完全であること云ふばかりで無くて、餘り感情の扱ひ方が下手であると云ふと、感情と云ふものをば全く毀して仕舞ふと云ふやうな虞があるのです。例へば子供が物事に付て恥かしかると云ふ即ち廉恥心是等は或點から言へば餘り恥かしかつて許り居つては可かぬですけれども、併し一度此廉恥心の取扱ひ方を誤りますると云ふと今度は實際恥かしい事に出逢つても其恥かしいと云ふことを感じなくなるのです。餘り家庭杯が嚴格であつて子供に當り方が強くなりますと云ふと所謂圖々しい子供になつて今度恥かしい事に出逢つても恥と云ふ心が起らないやうになつて仕舞ふのです。感情は傷けられ易いものである。此恐れると云ふ所の心も恥の感情と同様で傷けられ易いものであるから、餘り何事に對してでもそれも怖い、是れも怖いと云ふやうにして行くと、遂に正しい所の發達が出来ぬで臆病と云ふ極端な性質に陥つて仕舞ふのです。それだからして詰り子供を扱ふのに氣を付け

ると云ふことは無論大事であるけれども、大人の心で恐ろしい事と思ふても、それを雨ぐ子供に傳へると云ふやうなことは不得策なる方法と考へて宜いのです。それからして兎角子供を家に許り置いてさうして他の子供と餘り接近させる事が無いとか、或は他の家庭に餘り連れて行つた事が無いとか云ふやうな有様でありますと云ふと、幾らか子供が臆病と云ふやうな風の有様に陥り易いのです。それは何せさう云ふやうな有様に陥ると云ひますと、子供の適合性と云ふものか餘り發達しなくなる爲です。適合性と言ひますのは、即ち平生違つた境遇に出逢つた時に旨く其境遇に適した所の精神の働き方をさせるので、大人が此適合性を能く作つて行くと云ふには、詰り種々の場所に於て場所慣れて來れば其適合性が多く養はれて來るやうになるのです。それと同様で矢張り子供でも唯引つ込めて許り置くと、其適合性が發達しませぬからして、そこで新しい違つた場合に出逢へば、幾らか自分で恐れ的心を起し易くなつて來るのです。さう云ふ點から申しますると、矢張り子

供の會合、子供の集まりと云ふやうなものを時々催すのが宜しいのです或は又子供の教育に能く行届いて居る家に子供を連れて行くと云ふことも餘程宜しい事です。詰り或家庭と或家庭とが御互ひに相談をして、甲の家から乙の家を訪ね、乙の家から甲の家を訪ねると云ふやうに、子供の教育と云ふことの目的を以て訪問すると云ふことがあつて宜からうと思ひます。

▲奇なる人違ひの事 三年前に英國ケント州ミンスターといふ所のうら淋しき一軒家に無慘の死を遂げた一婦人があつた、同人は同州の農婦として知られたるシャイロット、タークといふものでありと認められて葬式を了つた所が、此頃になつて右のシャイロットが突然と現はれたので、基督ではあるまいし蘇生つて來たのでもなからうと三年前埋葬の始末を語ると本人の喫驚は又一段であつた眞の横死者は果して何人であるかは知られず了つたといふ事である